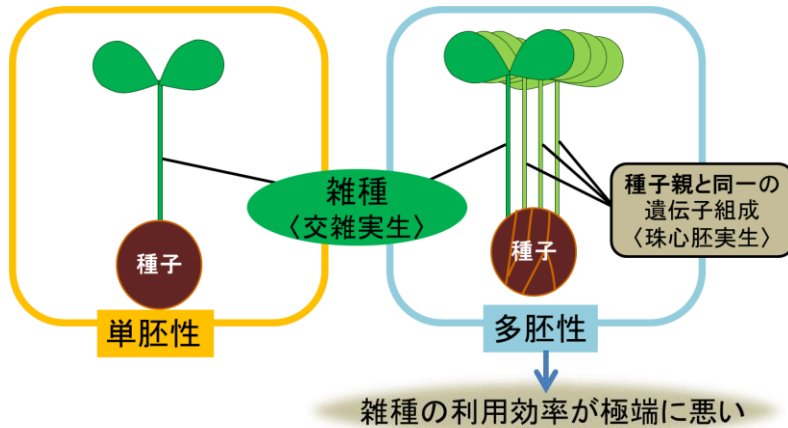


単胚性・多胚性の識別マーカーについて

カンキツ類の種子形成の性質として単胚性と多胚性が存在する。単胚性個体は多胚性個体と比較して交雑胚を獲得しやすいため、育種親として利用価値が高い。そこで、単胚性・多胚性の識別マーカー（Shimadaら，2018）を用いた初期段階における単胚性個体の選抜が今後の育種の推進・効率化に重要となる。



従来の胚性識別方法



結実するまで種子調査ができない

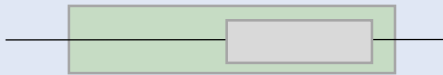
識別マーカーの適用



発育2~3か月の幼苗で胚性識別が可能

識別マーカーの適用により、遺伝子から胚性の識別が可能

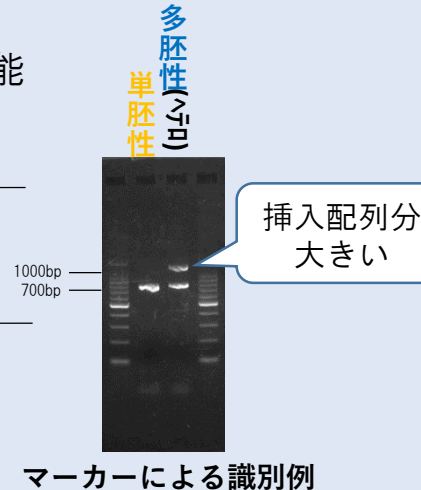
単胚性対立遺伝子



多胚性対立遺伝子



この領域を確認



識別マーカーの適用によるメリット

- ・従来の胚性識別方法（種子調査）と比較して、約5年*早く識別可能
- ・選抜までの作業負担や栽培面積の大幅な削減

*穂木となる大きさまで約2年、接ぎ木から結実まで約3年